

四明会たより

京都大学農学部四明會 2024年8月発行

ごあいさつ

四明會会長 田尾龍太郎
(農學研究科長・農學部長)

会員各位には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は本会の活動にご支援・ご協力を賜りまして、誠に有り難うございます。四明會は令和6年度、学部303名、大学院修士課程295名、博士課程66名の新会員を迎、会員数は27,071名となりました。

昨年(令和5年)5月より、新型コロナウィルス感染症の位置づけが、新型インフルエンザ等感染症扱い(いわゆる2類相当)から5類感染症へと移行しました。これに伴い、四明會の多くの行事が以前のように現地での対面開催あるいはハイブリッド開催となりました。清風荘で開催された観月会や旧演習林事務室およびザ・プリンス京都宝ヶ池で開催された農學部卒業50周年記念同期生会には多くの会員の方が参加され、旧交を温められました。会員の皆さまにおかれましては、今後とも四明會の各事業への積極的なご参加をお願い申し上げます。

京都大学農學部は、昨年2023(令和5)年に創立100周年を迎え、「農學部100周年記念式典」を、2023(令和5)年11月11日(土)に京都都ブライトンホテルにて挙行いたしました。その中で“2050年に向けた「生命・食料・環境」の重要課題”をテーマにパネルディスカッションを行いました。各界で活躍する卒業生から、若手の事業家、研究者として、高橋祥子 株式会社ジーンクエスト取締役ファウンダー、辻本泰弘 国際農林水産業研究センタープロジェクトリーダー、安藤温子 国立環境研究所主任研究員、西辻一真 株式会社マイファーム代表取締役の4名をパネリストに迎え、北島薰 農學研究科副研究科長(当時)をモデレーターとして、農學という学問分野が、日本や世界の人々と環境の未来にどのような貢献をすることができるのか、するべきかについて、活発な意見交換を行いました。

また「農學部100周年記念事業基金」を設立し、農學部百年史を編集発刊し、さらに国際シンポジウムをはじめとして、さまざまな事業を実施いたしました。本基金につきましては、今後も国際シンポジウムの開催補助や学生や若手研究者の渡航費補助に役立てられるほか、農學部における教育と研究環境等の整備にも活用する予定にしております。次世代の学生・若手研究者たちが、人類の持続的未來の鍵を握る農學の發展をリードする研究者として、あるいは、環境と食料供給の持続性に農學の専門的知識をもって取り組む人材として活躍できるよう支援してまいります。ご寄付をいただきました会員と関係者各位に感謝申し上げます。

一方、長年ご支援をいただいている農學部教育研究基金につき

ましては、引き続き農學研究科独自の若手・女性研究者育成・支援やリサーチアシスタント(RA)経費等の支援事業に充てております。本事業は、当研究科におきましても喫緊の課題となっている博士後期課程の低い学生充足率への対応と位置付けております。この基金による、従来の大学院学生を対象とした国際研究集会発表支援事業も、農學部100周年記念事業基金による支援とあわせて、継続させて頂いております。さらに、農學部教育研究基金は、男女共同参画社会実現を目的に、教員が出産・育児に携わる期間、教育・研究活動に支障をきたすことなく双方を両立できる職場環境の支援制度にも活用されております。農學部教育研究基金につきましては、名誉教授の先生方をはじめ、多くの会員からご寄付を頂戴しておりますことに篤く御礼申し上げます。お願いばかりで誠に恐縮ですが、農學部100周年記念事業基金へのご支援を引き続き宜しくお願い申し上げます。

農學部と農學研究科は、2001年に学部学科と研究科専攻の改組を行い、現在の形となったのを最後に、大きな改組は行なわずに教育と研究活動を行い、持続的に発展を続けてきました。しかしながら、この間に社会の変化は加速しており、次の百年間の発展を見据えて、目に見える改革を行う時期に差し掛かっています。

人口増加と経済発展により、2050年の食糧需要量は2010年比で1.7倍となると予測されています。しかし、近年の地球温暖化や戦争、地域紛争等により、作物の減収が懸念されており環境変動の影響を受けにくい食料生産が求められています。また昨今の円安に伴う経済状況の変化で、輸入に大きく依存している国内の食料供給と食料生産体系が強く影響を受け、食料価格が急騰しており、日本国民の食料生産と食品に対する関心は高まっています。

このような中、「生命・食料・環境」をキーワードに掲げる農學研究科では、今後、人類の生存(生命)に不可欠な食料生産と食品(食料)、および生存・生産環境(環境)に関する総合知を創出し、この難局に立ち向かうために必要な改組を進めてまいる所存です。どうぞ、会員の皆さまにおかれましてもお力添えをよろしくお願いいたします。



ホームページについて

ホームページではいろいろな活動の告知や報告も掲載しています。随時更新していますので是非ご覧ください。
URL : <https://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>



同窓会たより

◎農学科(KND)

KNDならびにゆりの木会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。ゆりの木会は5月25日に新入生歓迎会を、6月10日に木津農場にて田植え会ならびに早苗饗を、11月23日にソフトボール大会を、2月16日に予餞会を行いました。

昨年の四明会たよりでのご報告依頼、多くの人事異動がありました。2023年10月には農学専攻事務室の松田周一主任が数理解析研究所へ異動されました。2024年1月には雑草学分野の岩上哲史助教が東京農工大学へ転出されました。2024年3月には作物学分野の白岩立彦教授および植物生産管理学分野の中崎鉄也教授が定年退職されました。また、2023年10月に農学専攻事務室に由井佳子主任が、2024年1月に育種学分野にALNOR Yasir SERAG特定准教授が、同年4月に作物学分野に桂圭佑教授が、同年4月に作物学分野に多田光史特任助教が、同年4月に果樹園芸学分野に大森真史助教がそれぞれ着任されました。また、2024年4月に植物生産管理学分野の中野龍平准教授が教授に、蔬菜花卉園芸学分野の大野翔助教が准教授に昇任されました。同年6月に育種学分野の山森晃一特任助教が特定助教に着任されました。

末筆ながら、会員の皆様のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(下野嘉子)

◎林学科(クローネ会)

クローネ会の皆さまにおかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。4月10日には旧演習林事務室にて、森林科学専攻の新入生に向けたオリエンテーションが、5月25日には上賀茂試験地にて、恒例の森林科学専攻新入生歓迎会が開催されました。試験地では天候に恵まれ、講座ごとに用意された屋台はどれも盛況であり、大いに交流を楽しむことができました。

旧林学科の教員の異動につきましては、2024年3月に森林・人間関係学分野の松下幸司教授、環境デザイン学分野の柴田昌三教授が定年退職されました。長年の本学科における教育と研究へのご貢献に深く感謝申し上げます。そして、2024年4月には森林・人間関係学分野に立花敏教授(筑波大学から)、環境デザイン学分野に今西純一教授(大阪公立大学から)、熱帯林環境学分野に黒川紘子准教授(森林総合研究所から)、森林生態学分野に辰巳晋一准教授(森林総合研究所から)、山地保全学分野に宮田秀介准教授(京都大学・防災研究所から)が着任されました。

令和5年11月23日に開催された京都大学森林科学公開講座が京都大学農学部総合館で対面開催されました。「森を護る、木を使う」をテーマに森林利用学分野・时任美乃理先生から東南アジアにおける森林利用と環境保全の関係について、森林生化学分野・中沢威人先生から木材腐朽菌の遺伝子研究について、大変興味深い話題提供をいただきました。また、森林育成学分野の徳地直子先生と生物材料化学分野の寺本好邦先生らによって、北白川試験地および実験機器の見学ツアーも開催されました。

末筆ながら、会員の皆様の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(坂部 綾香)

◎農芸化学科・応用生命科学科(専攻)(六成会)

六成会は旧農林化学科・農芸化学科の流れをくむ同窓会です。現在、農学研究科応用生命科学専攻の11研究室(細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、エネルギー変換細胞学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化

学、生物機能制御科学、応用構造生物学)と生命科学研究科の2研究室(分子細胞育種学、植物分子生物学)、応用生命科学専攻協力講座の5研究室(分子生体触媒化学、分子微生物科学、森林圈遺伝子統御学、森林代謝機能化学、木質バイオマス変換)、加えて、産学共同講座「産業微生物学」の学生と教職員で構成されています。

今年度も教育と研究について、通常どおりの活動が始まっています。令和6年の4月には、学部1回生48名が入学しました。この中には日本語を学びながら学士をめざす留学生プログラムKyoto iUPに参加したタイからの留学生が1名含まれています。大学院には応用生命科学専攻修士に52名(留学生6名)、同博士後期課程に12名(留学生7名)進学しました。生命科学研究科の2研究室には5名が修士課程に進学しました。入学式や各種ガイダンスの後には、対面式の新入生歓迎会を農学部大会議室で開催しました。ジュースやお茶で乾杯して軽食を食べつつ、新入生の上手な自己紹介を皆で聞き、とても楽しい有意義な時間を過ごしました。

教員の異動については、まず森林圈遺伝子統御矢崎一史教授と、木質バイオマス変換渡辺隆司教授が令和5年度末をもって定年退職されました。長年の本学科・専攻における教育と研究へのご貢献に深く感謝申し上げます。お二人は、生存圏研究所特任教授として引き続き本学に在籍されます。新規採用としては、生体高分子化学宗正智助教(令和6年2月、奈良県立医科大学から)、森林代謝機能化学巽奏助教(同3月、フランス国立研究所CNRSから)、分子生体触媒化学林謙吾助教(同4月、東北大学から)、木質バイオマス変換岸本崇生教授(同7月、富山県立大学から)が着任されました。また、森林代謝機能化学杉山暁史准教授(同4月)が教授に昇任され、生物機能化学北隅優希助教(同4月)が准教授に昇任(同4月)されました。一方で、産業微生物学竹内道樹特定助教(京都工芸繊維大助教)が令和5年度末に転出されました。新天地でのますますのご活躍をお祈り申し上げます。

主要行事としては、農学部グランドでの研究室対抗ソフトボール大会が、スポーツ委員を中心を開催され、お昼休みに熱戦が繰り広げられています。もう一つの主要行事である予餞会も令和6年2月に対面式で開催することができました。コロナ禍の影響もあって中断していた「応用生命文化祭」も、非公式行事として同2月に有志で開催されるなど、学生の自発的な交流も活発化しています。今後も六成会のつながりと伝統を、様々な行事を通じて伝えていきたいと考えております。会員の皆様には、くれぐれもご自愛の上、今後とも六成会へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

(伊福 健太郎)

◎農林生物学科(南窓会)

南窓会の皆様におかれましては、お元気でお過ごしの事と存じ上げます。新型コロナによる活動制限もなくなり、以前のように活気に満ちあふれた研究教育環境で精力的に活動しています。

旧農林生物学科に関わる卒業生・修了生の学位取得者を紹介いたします。高田昌汰氏(植物病理学)、白井雄氏(昆虫生理学)、Pattara OPADITH氏(生態情報開発学)、田中雅也氏(生態情報開発学)が昨年度中に博士号を取得されました。このうち、白井雄氏は令和5年度京都大学総長賞を受賞されています。

残念なお知らせもございます。農林生物学科を卒業し、実験遺伝学講座(現・植物遺伝学分野)で助手をされた岡山大学名誉教授村松幹夫先生が、2024年4月26日に岡山市でご逝去されました。享年、95歳でした。村松先生は、コムギの栽培化に関するQ_q遺伝子の量的変化によるコムギ穂型変化について先駆的な研究をなされま

した。ササ・タケの雑種育成に関する研究については、退職後も研究を継続され、2023年3月の日本育種学会講演会で発表をされていました。

また、昨年11月に大西近江先生（京都大学名誉教授）がご逝去されました。大西先生は、向日市物集女町の栽培植物起原学分野教授として、フィールド調査と遺伝解析の組み合わせにより、普通ソバの中国三江地域起原を提唱されました。普通ソバの起原地として、従来はシベリア・黒龍江地域説が支持されていましたが、大西先生により、雲南省、四川省、東チベットにまたがる三江地域に自生する野生祖先種が、普通ソバに最も近縁であることが明らかになりました。大西先生は、普通ソバの野生祖先種だけでなく、未記載のソバ属の新種も8種発見されました。お二方のご冥福をお祈りいたします。

さて、旧農林生物学科の研究室が所属する資源生物科学科では、3回生進級時にコースを選択する新制度が導入されています。旧農林生物学科と対応する生物先端科学コースは、植物遺伝学、栽培植物起原学、植物病理学、昆虫生態学、昆虫生理学、微生物環境制御学、生態情報開発学を含め全8分野で構成されています。今年度は、コース制移行後初めての研究室配属があり、それぞれの分野に活気あふれるメンバーが配属されました。一年間、学生実験などを通して交友してきたメンバーだけに研究室は別でも横の繋がりが強く、活発に情報交換している様が見受けられます。コース制の特性を活かし、研究室間の交流をより深めながら、各分野の未来を支える人材へと導けるよう教員一同心がける次第です。今年度も22名の学生が生物先端科学コースを選択してくれ、教員もコース制に少しは慣れてきたところです。研究室、生物先端科学コースに配属された学生とともに、旧農林生物学科の自由な伝統を守りつつ、京都大学農学部らしい最先端・世界トップクラスの基礎生物学研究を開いてまいります。南窓会の皆様には、引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。

（吉見 啓）

◎地域環境工学科（洛水会）（旧農業工学科、旧農林工学科）

暮夏の候、関係者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年、京都大学農学部は創立100周年を迎えました。現在の地域環境工学科の前身である農林工学科が設立されたのは、1924年のことであり、2つの講座（農業工学第一・第二講座）から始まりました。翌1925年には、農業機械学講座と林業工学第一講座が農林工学科に拡充されました。本年2024年は、洛水会にとって節目の100年を迎える年であり、また次の100年に向かうスタートを切る年とも考えます。今年の総会は、前年と同様に対面とオンラインのハイブリッド開催となりましたが、その後の懇親会は5年ぶりに対面で実施することができました。

昨年度総会以降の人事異動と致しましては、2023年9月に藤川陽子先生が学内異動により放射線管理学分野教授、東口阿希子先生が岡山大学より農村計画学分野助教に着任しました。同年12月には伊藤彩菜先生が大和ハウス工業株式会社より農業システム工学分野の若手重点戦略助教に着任しました。2024年3月末をもって農村計画分野教授であった星野敏先生がご退職され、同年4月に愛媛大学より武山絵美先生が農村計画学分野教授に着任し、女性の活躍が進んでおります。また、慶事と致しまして、名誉会員の長谷川高士先生、正会員の中川敬夫様が令和6年春の叙勲の栄に浴されました。

本会の貴重なネットワークが次の100年も存続すべく、有為な人材を輩出することが大学としての重要な役割となります。これからも、研究連携や就職支援など、様々な場面で会員の皆様のご支援ご協力を頂戴できましたら幸甚に存じます。最後になりますが、名

誉会員の三野徹先生が2024年2月にご逝去されました。三野先生の当該分野に対する多大なるご功績に敬意を表するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（藤澤 和謙）

◎農林経済学科（洛友会）

独り身の男（今年七十三歳）の近況とは、自由であり次々不安も頻発する。『悟』といえば大げさだが、昨今腹にストンと落ちる快感を覚えだした。

週一回の「ぐうたら農法」による自給用野菜づくり。月一回ずつ世話をした老人（80代）に会いにゆき、グループ（社会活動をリタイヤした80代数人）と交流。不定期な洛友会幹事長の関連活動。ゆるくて他人の力で生きてきた自分には未経験な、日常生活（もう慣れたが）。

80代男性の世話をにより学ぶ場を得て約10年。そこには社会貢献を終えて醸し出される言葉と姿勢が観られる。人生の内面を見つめる旅人達（量から質へ）。文化政治経済、生死、喜怒哀楽が滲み出る。世はターニングポイント（人類の未経験ゾーン）と揶揄されているようだが、歴史（疑似経験）からみると、繰り返しか経過過程と推察しているかの様に語り、皆から余裕（客観視線）を感じる。

温暖化、戦争、パンデミックの中、日本の『食料農業農村』は持続可能か？国（行政）だけで負える問題ではない。縦横が織りなすシステム（受益者が共有する意識による）の構築と、世代間を超えた価値観（命あっての金）を知るべし、とのお喋りが今後も闘争に行え続けられるのか（自他共に生きていこうとするなら大丈夫）。

我が近況は、出がらしの渋みを味わう楽しみの日々とも思えている。現実の切迫感（心身の衰え）の中で。

（鏡島正信）

◎水産学科（緑洋会）

緑洋会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。令和5年度の応用生物科学専攻の海洋系（旧水産学科）における教員の異動はございませんでしたが、令和6年4月1日付で、海洋生物機能学分野に淺井智子助教が着任されました。

長く続いたコロナ過での活動制限から、令和5年5月8日「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」の「5類感染症」への移行に伴い、日常が取り戻されると同時に、失われてきたものが、いかに大きかったかも実感する1年だったように思います。令和5年度では、前年度の修士論文発表会に引き続き、課題研究発表会も4年ぶりに対面（ポスター発表）となり、とても活発な交流の場となりました。

資源生物科学では、令和3年度入学生より3年生への進学時に4つのコース（海洋生物科学、植物生産科学、応用動物科学、生物先端科学）のいずれかに所属することになっています。令和6年度には、いよいよコース制となって初めて4年生がコース内の分野（研究室）に分属し、課題研究を開始いたしました。3年生からコース別で学生実験を行うこともあり、より充実した修学環境が整いつつあるように思います。

末尾になりましたが、緑洋会会員の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

（菅原達也）

◎林産工学科（ユナリグナ）

ユナリグナの会員および会友の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年度夏以降の旧林産工学科関係の人事ですが、林産加工学（旧林産機械学）分野教授に生物材料設計学（旧木材工学）分野准教授の村田功二先生が昇任されました。複合材料化学（旧木材加工材料科学）分野准教授の吉岡まり子先生と森林生化学（旧バイオ

マス循環論)分野准教授の坂本正弘先生がご退職されました。松尾美幸先生が生物材料設計学(旧木材工学)分野の准教授に着任されました。樹木細胞学(旧木材構造学)分野助教の栗野達也先生が准教授に昇任されました。

さて、同窓会活動に関しましては、学科再編などの影響をうけ、「ユナリグナだより」の発行も止まった状態で、「ユナリグナ」としての活動は停滞気味ですが、一方で、「東京ユナリグナ」、「関西ユナリグナ」がそれぞれ2年に1度交互に開催されることとなり、同窓生の交流の場が定着してきました。コロナ禍の影響で、開催が中止されてきた「関西ユナリグナ総会」につきましても今年開催される予定です。

また、私自身が管理者となっております「ユナリグナ」のホームページ(URL: <http://h3news1.kais.kyoto-u.ac.jp/users/yanase/>)につきましても、「東京ユナリグナ」と「関西ユナリグナ」の開催情報などをできる限り更新していきたいと考えておりますので、ぜひご覧ください。

最後になりましたが、会員および会友の皆様からの一層のご支援とご協力をお願いしますとともに、皆様の益々のご健勝をご活躍をお祈り申し上げます。

(築瀬佳之)

◎食品工学科・食品生物科学科(専攻)(中陽会)

中陽会の皆様におかれましては、時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。本学科・専攻の最近の動きと人事異動をご紹介申し上げます。

中陽会の企画としましては、新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置の期間が終了しましたので、学科の卒業生と専攻の修了生を送り出すための中陽会の歓送会を京都大学時計台国際交流ホールにて2月19日に開催することができました。卒業式と修了式は予定通りに行われ、食品生物科学科の4回生32名が卒業し、同専攻の修士課程2回生31名が修了いたしました。4月5日には中陽会の総会ならびに新入生歓迎会を農学部総合館W522講義室にて実施し、中陽会会长の谷史人教授には中陽会の歴史と伝統に関するご説明を、食品生物科学科長佐々木努教授には本学の学生としての心得などをお話しいただきました。令和6年度は、食品生物科学1回生34名および同専攻修士課程4名、同博士後期課程1名を新たな会員として迎えました。その後の交流会は、理学研究科のセミナーハウスをお借りし、新入生歓迎会では新入生が各自のプロフィールとともに自己紹介を行い、教職員や他の新入生との親睦を深めました。

次に、令和5年度の教職員の異動についてご報告いたします。令和5年4月1日付で金沢大学創成研究機構小倉康平助教が生物機能変換学分野准教授に着任いたしました。令和6年3月1日付で生物機能変換学分野老木紗予子助教が国立感染症研究所真菌部研究員に転任いたしました。令和6年3月31日付で生命有機化学分野入江一浩教授が退職いたしました。

最後に、会員の皆様におかれましては、中陽会の発展のため、今後とも格別のご支援を賜りますよう、心よりお願いを申し上げます。末筆となりましたが、皆様の益々のご活躍を祈念いたします。

(小倉康平)

◎畜産学科(はくび会)

はくび会、かすみ会、カトレア会の皆様におかれましては、ますます

ご活躍のこととお喜び申し上げます。まず教員の異動について紹介させて頂きます。令和5年4月には生体機構学分野に宇野 絹子助教が着任され、同年10月には動物遺伝育種学分野に小川 伸一郎助教が着任されました。令和6年3月末に畜産資源学分野・廣岡 博之教授が定年退職されました。また、令和6年4月には畜産資源学分野の大石 風人助教と塚原 洋子特定講師が共に准教授に昇任されました。応用動物系5分野(動物遺伝育種学分野、生殖生物学分野、動物栄養科学分野、生体機構学分野および畜産資源学分野)一同、元気に研究・教育に励んでおります。

ここ数年間は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事が相次いで中止となっていましたが、令和5年5月8日の感染症5類移行に伴い、各研究室の行事を始め、はくび会の活動も再開されました。恒例のソフトボール大会も例年の春から秋に時期を変えての開催となりましたが、白熱した好ゲームが続き、生殖生物学分野と動物栄養科学分野の同時優勝となりました。令和6年からは従前通り春開催となります。今後とも応用動物系全体で親睦を深め、はくび会としての関係性がより強固なものとなることを心より願っております。

応用動物系5分野は農学部総合館北東部の2階から4階にかけて居を構えています。お近くにお越しの節は、お気軽にお立ち寄り下さると幸いです。

(太田 豪)

◎熱帯農学専攻(熱田会)

熱田会のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

熱田会は旧熱帯農学専攻の同窓生組織ですが、すでに専攻は「発展的解消」して幾年月。専攻を構成していた各研究室は幾度かの組織改編を経てそれぞれの組織に収まっています。各研究室ではいまでも熱帯の自然や農業を対象とした研究を行っているのですが、この一年間くらいで起きた変化としては、研究における交流だけでなく、海外の大学や学部間での国際学生交流も再開してきていることが挙げられます。特に、海外から日本にやってくる学生交流の事業の数々が再開してきており、私の関わるところでもタイやインドネシアの大学からの学生が日本にやってくるプログラムが復活してきています。受け入れのノウハウがコロナの間に一部途絶えてしまっているので、対応に時間と手間がかかってしまいます。外国の大学は熱心なのですが、こちらの大学運営側の姿勢としては国際交流などにたいして今ひとつ積極的ではない印象を持ちます。日本は海外に比べて内向き姿勢を強めているのでしょうか。観光客によるインバウンド需要が高まっているとの報道がありますが、出国する方はあまり話題に上りませんね。これらの傾向には通底するものがあるように思います。円の交換レートが弱いことも反映しているのでしょうか。しかし、日本に来てくれるのは、費用が安く済むようになったというだけではなくて、やはり日本というものに一定の魅力がなければ来てくれないはずですから、観光客にせよ、学生交流にせよ、こちら側にまだ、それなりの魅力があるのだろうと思っています。大学も、そうした魅力を、少なくとも維持したいと思います。日本に来て学ぶことの魅力とは何か、問い合わせてゆきたいと思います。

会員のみなさまのますますのご健勝をお祈り申し上げます。

(樋口浩和)

同窓会・クラス会の報告について

平成30(2018)年より同窓会・クラス会支援制度がスタートし、その報告を令和元(2019)年から掲載しています。昨今はコロナウイルスの影響で同窓会・クラス会の開催が少なかったようですが、今後は多くの会の開催と報告を期待しています。

京都大学農学部卒業50周年記念同期生会

京都大学農学部は大正12(1923)年、勅令第489号をもって京都帝国大学に7つ目の学部として設置され、翌年4月入学生を受け入れ、昭和2(1927)年3月には第1期生61名の卒業証書授与式が執り行われました。

昭和52(1977)年5月19、20日の両日、農学部第1期生卒業50周年記念同窓会が開かれ、当時ご健在の卒業生30名中16名の方々が参会、懐旧談に花が咲き夜遅くまで懇談されたと昭和52年11月発行の四明會名簿第26号に記載されています。

以来開催の時期は多少異なりますが第2期生の会、第3期生の会と続き、近年は京都大学同窓会のホームカミングデイの前日に開催されています。数年前からは大学院から入学された方にも参加を呼び掛けています。

昨年は昭和48(1973)年3月に学部を卒業された方々の卒業50周年にあたり、昭和50(1975)年修士修了の方々の会を11月17日(金)に開催いたしました。

今年は例年同様ホームカミングデイの前日令和6年(2024)年11月1日(金)に、昭和49年卒業、51年修了の方々の記念同期生会開催を予定しています。

例年は参加者の中から報告を執筆していただき写真とともに掲載していますが、今年は事務局で執筆しました。

(四明會事務局)

京都大学農学部令和6年度入学生保護者懇談会

四明會では学部入学生の保護者の方々を対象に、令和5年と同様に入学式当日の午後に「京都大学農学部入学生保護者懇談会」を対面形式とZOOMによるオンライン形式のハイブリッド型で開催しました。昨年は、W106教室とW306教室に分かれて実施しましたが、新型コロナウイルスのパンデミック前と同じように益川ホールで実施することができました。98名の方が対面で参加し、10名の方がオンラインで参加しました。

農学部の新入生が農学部全体のガイダンスを受けている時間帯に保護者の方々に集っていただき、新入生のこれからについての情報等を教員から提供し、その後に保護者の方々から出される質問に応えるという形式で進められました。

今回の内容は、四明會会長(農学部長)田尾龍太郎先生のご挨拶、四明會副会長からの四明會についての説明、農学研究科副研究科長栗山浩一先生から「学生生活について」、農学研究科副研究科長木岡紀幸先生から「卒業後の就職について」、農学研究科副研究科長高野俊幸先生から「農学部カリキュラムの特徴について」という講演が行われました。講演後、保護者の方からの質問もあり、懇談会は盛況のうちに終わったと思います。アンケートでは、回答された保護者全員から懇談会の講演の内容に「満足している」との回答をいただいています。今年度は、ハイブリッド型で懇談会を実施しましたが、来年度は、対面型のみで実施する予定にしております。今後、さらなる内容の改善策を検討し、より充実した懇談会となるようにしてまいります。

最後に、四明會では恒例となっておりますソフトボール大会、各同窓会への支援、農学部卒業50周年記念同期生会、農学部・農学研究科OB・OGを招聘してのキャリア・就職懇談会の行事を引き続き実施・開催して参ります。今後とも四明會へのご理解とご支援・ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

(四明會副会長 吉田健太郎)

同窓会・クラス会支援制度について

同窓会活動の活性化を図るために、学科、専攻、分野ごとに開催する同窓会・クラス会で、一定の条件を満たす場合に経費の一部を支援します。

【条件】

- ①10名以上の参加者があり、当該年度の年会費または終身会費の納入者が参加していること
- ②参加者名簿、開催報告、写真を提出すること(開催報告、写真は四明會たより、ホームページに掲載する)
- ③学科同窓会が主催するものは対象外

【支援】

1回につき1万円とし、年1回を限度とする。

【手続き】

- ①四明會事務局に上記の書類を添えて申請する。
- ②四明會事務局において審査の後、指定口座に振り込む。

同窓会・クラス会報告

同窓会活動の活性化を目的に、学科、専攻、分野ごとに開催する同窓会・クラス会で、一定の条件を満たす場合に経費の一部を支援する「同窓会・クラス会支援制度」を実施しています。今回は6件の報告が寄せられましたので紹介します。みなさまのご報告をお待ちしています。

卒業50周年記念農学・農林生物・水産学科の合同同窓会 2023/10/2

昭和46～48年(1971～73)3月に農学・農林生物・水産学科(昭和42年入学・教養部A6クラスを中心)を卒業した26人が、2023年10月2日に岡崎法勝寺町にある「白河院」に集まり、合同同窓会を開催しました(2021年に行う予定でしたが、新型コロナ感染症の影響で延び延びになっていました)。

卒業以来52年ぶりに顔を合わせた人もいました。お互いの変貌に戸惑ったものの、声を聞いた途端に学生時代にもどり、あれこれの話題で盛り上りました。夕方6時から始まった宴会では、それぞれが卒業後の仕事や経歴、現状を紹介しました。初めて聞くことも多く、驚いたり、拍手したりして、にぎやかに過ごしました。そして、4、5年後にまた集まるために健康維持に努力することを約束し、閉会しました(宿泊した12名は、学生時代さながら、深夜までお酒を呑みながら止め処もなく話し続けました)。

翌日、有志は東山界隈を散策し、まず南禅寺に行き、水路閣を見てから蹴上に出て、山縣有朋の京都別荘だった「無鄰菴」を見学しました。そこから白川に沿って祇園四条の近くまで歩き、ロシア料理店「キエフ」で昼食会をして別れました。

参加者:猪谷富雄・大城 閑・小澤良和・笠原正彦・片川 聖・川島 倉・河邊治男・木下 澄・田中 廉*・辻本英一・土屋和三・飛岡久弥・中島啓子*・仁井文夫・西川岩治*・長谷川博*・堀川 諭・牧 和敬・松本満夫・三田村啓子*・南 敏次・本射正夫*・山本義厚・山脇孝博・吉井精一・渡辺茂樹(*幹事)



田園都市A3昼食会 2023/10/20

2023年の異常に暑い夏がようやく終わりかけた10月20日、「田園都市A3昼食会」をたまプラーザ東急百貨店5階の中国名菜「陳麻婆豆腐」で開催しました。この会は田園都市沿線から広がる地域に住む昭和35年入学「教養A3組」同期生の昼食会です。2007年から始まり、「継続することに意義あり、定期的・自動的に集まる昼食会」をモットーに年2回の開催を続けてきました。コロナ禍で一時中断ましたが、再開して3回目です。今回は札幌在住の林学の青柳正英君が加わり、農経9名、農工1名、林学1名、計11名が集まりました。次回は2024年5月10日です。ちょうど大学卒業60周年になりますので、記念になる昼食会にしたいと考えています。

会の名称を「関東39四明会」と改名したところ、一部の方に誤解を与える結果となりました。紙面をお借りしてお詫び申し上げ、会の名称をもとの「田園都市A3昼食会」に戻します。

(経39 安田 稔)



参加者:青柳正英、内田雅晃、小田有久、北川隆次、
小林 宏、杉江勘治、関谷正人、広本昌也、
藤田元彦、安田 稔、山口 務

食品工学科卒業52年の集い 2023/11/1

私たちは、1967年新設された食品工学科の1期生として入学し、70年安保、大学紛争という大嵐を経て1971年卒業を迎えました。

2021年には、四明会主催で農学部卒業50周年記念同期会が開催される予定でしたが、コロナ禍により中止となりました。

今年になり、コロナ禍が収束に向かう中、同級生が集まる機会を要望する声が高まり、上記の「集い」を実施することになった次第です。

11月1日、北海道から鹿児島まで、14名が大学近くの「進々堂」に集合し、52年ぶりの再会という場面もありましたが、大学の講義室で中陽会会长の永尾教授にご挨拶を頂き、片山教授のご案内で研究室を見学した頃には、打ち解けた雰囲気になっていました。

大学を後にした我々は、当日の最大のイベントである懇親会会場「がんこ高瀬川二条苑」へ向かいました。お酒の勢いも相まって、近況報告や思い出話に花が咲き、大いに盛り上がりました。

さらには、大半のメンバーが二次会のカラオケボックスに向かい、昭和歌謡のオンパレードで時を忘れて楽しみました。最後

昭和40年卒水産同期生会 2023/11/14

昭和40年(1965)水産学科卒業の同期生会(昼食会)を令和5年(2023)11月14日に東京駅前の中華レストランにて開催し、11名が出席しました。前回は2019年秋に三重県志摩市矢で開催し、つぎに二年後(2021)に開催する予定でしたが、コロナ肺炎ウイルス流行のため延期となり、今回の開催となりました。水産学科は、在学当時、舞鶴キャンパスにあり、教養課程2年間を吉田キャンパス(あるいは宇治キャンパス)で過ごし、専門課程の2年間を全員19名が舞鶴で下宿や学寮生活を送りました。そのためか、学生間の絆がひとくわ強いように思われます。卒業後58年、81~84歳の高齢者で、各々身体に何らかの不具合を抱えていますが、気持ちは明るく、前向きで、近況や昔話を語りあいながら、互いに活力が得られたようでした。次回は二年後の2025年、卒業60年を祝して京都にて開催の予定ですが、それまでは元気にと、体調維持に努める励みとなっています。

(水40 菅原 庸)

昭和50年畜産学科入学の同窓会(自称75会) 2023/4/22-23

コロナ禍により中断されていた同窓会ですが3年ぶりに開催出来ました。朝から東海道新幹線が止まっているとの情報にひやひやしましたが多少の遅延ですみ、無事集合することができました。

京都在住の高橋氏に幹事をお願いし、山水庭園で有名な白河院に宿泊し旧交を温めました。翌日は南禅寺山門と平安神宮の庭園を見学して京都の春を満喫し、岡崎御苑豆狸で昼食後散会しました。

先に帰った方がおられ、写真には納まっていますが、15名の参加で大いに盛り上りました。

参加者:足立春彦、石井一弥、一瀬睦子、稻村典昭、高倉一美、高橋邦明、田代龍一、田中貴市郎、佃繁、中澤賢悟、廣川治、細井美彦、松山謙二、森本正隆、吉田英策



は、来年、東京での再会を期して散会しました。

永尾、片山両教授にはご多忙の中、快くご対応頂き、ありがとうございました。

参加者:臼田定和、江馬正弘、賀好弘志、狩野康之、北村芳彦、櫻井哲男、佐藤潔、鯨島吉廣、杉山圭吉、野澤正雄、馬場良雄、古本重廣、山本憲二、吉田哲夫

(食工昭46 杉山 圭吉)



参加者:小西裕一、佐々木義史、瀧川 弘、菅原 庸、

寺野 紘、中嶋 毅、中野幸夫、中山 寛、

早崎幸夫、森田明成、和田克彦



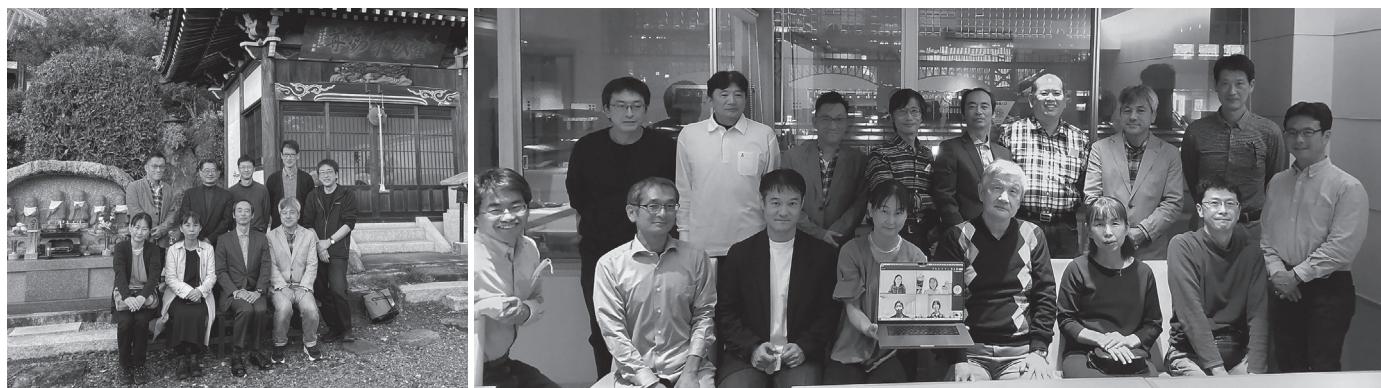
(畜54 一瀬睦子)

舞卯の会 2023/10/28

平成2年農芸化学科入学者は72名で、クラス担任の山田康之先生(化32、愛称:ぶうちゃん)を囲み、学生時代、そして卒業後も「舞卯の会」として定期的に集まってきた。残念ながら山田先生は2021年8月に逝去されてしまいましたが、当日は、有志で黄檗山萬福寺の墓前にご挨拶に伺ったあと(写真左下)、京都駅前で夕食会を開催することが出来ました(写真右下)。

山田先生から頂いた、「お世話になった先生方に感謝の念を忘れず、舞卯の会は存続するように」とのお言葉を大切にし、今回は、教養で有機化学を教えて頂いた山本行男先生(化47)をご招待。関東や九州を含めた各地から17名が京都に集い、加えてスウェーデンをはじめ遠方の5名とオンラインで繋ぎながら、総計23名で歓談する事が出来ました。

卒業後30年を経ても、多くの同期が仲良く集まれることは、山田先生の求心力によるところであると再認識。旧交を温めると共に、学生時代に先生方から教わったことを改めて思い出し、次は自分達が、若い人たちに大切なことを伝えて行かなければならないという気持ちを新たにする機会となりました。



参加者:山本行男先生、秋月、秋山、井川、宇治野、岡田、小林、佐伯、鈴木、曾根、高木、高橋、新留、西井、松尾、村上、村元、由里本

オンライン:磯谷、川端、楠川、中野、山崎 (一部旧姓)

(化平6 由里本 博也)

近況報告

毎年8月に「四明会たより」とともに名簿調査はがきをお届けし、住所等に変更がある場合のみ返送していただいているが、年齢を重ねる住所等が変わることも少なくなり、十年以上も連絡をいたしていない方がいらっしゃいます。そこで、最近は卒業後70年以上の方は住所等に変更がない場合でも近況をお知らせくださいとお願いしています。昨年は70年以下の方も含めたくさんの方から近況をお知らせいただきましたので、紹介します。お名前は伏せさせていただきました。

経25

元気で暮らしております。(二女筆)

農26

年齢相応の日常生活を重ねています。

化27

車イス生活になってから介護施設で暮らしています。何気ない日常のありがたみを実感する日々。農学部も100周年ですか、感慨深いですね。今後とも益々のご発展をお祈り申し上げます。

林28

森林と関わっています。足腰が弱くなっていますので、限界があります。気力は充分です。

林32

達者です。間もなく90才。

水35

スポーツクラブで運動を、家庭菜園とエッセ一同好会でもの作りを楽しんでいます。

林36

日頃のご無沙汰とお知らせが遅くなつて、非常に申し訳ありません

ん。五年近くの独居生活にいささか疲れを感じることと諸事情の変化により、鳥取出身の医師が理事長の施設に入居しました。TV、新聞と缶ビールと少々の日本酒が日々の糧です。室外へは車椅子。これでおおむね終点までのレールがひかれました。それでは取り敢えずのご通知まで。

水39

長い間大変お世話になり厚く御礼申しあげます。舞鶴での学生生活は一生のうちでもとりわけ楽しかったようです。最後はコロナ禍で面会も不自由だったのが心に残ります。(妻筆)

化39

京都大学農学部百年史ありがとうございました。残念ながらこの本を手に持つことは出来ませんでしたが、いつも京大生であることを誇りにしていました。お世話になりました。(妻筆)

経39

同窓生諸兄へ、お元気でお過ごしのことと想います。私もなんとか元気で、国内とインド、タイ、フィリピンのコメ政策貿易世界市場の調査と研究を続けています。何とか論文にして研究誌に日本語と英語で出版したいと考え計画しています。インドが巨大D.S.輸出国として強大になり、おもしろくなっています。
再会を楽しみに。

化40

八十路に入りましたが、繊維技術士の資格を生かして、繊維の発展に微力を尽くしています。

経42

60才で中咽頭ガン通院治療。68才再発(同部位)、昨年秋より抗がん治療、年末に体調悪化。3ヶ月入院し、2月3日より退院し、大好きな“堀ごたつ”的部屋での自宅療養。5月20日「いい人生だった」とボードに書き残し、78年10ヶ月の生涯でした。ありがとうございました。(妻筆)

化42

日本新薬(株)を研究開発副本部長で退所後、複数のバイオベンチャー企業で研究開発、管理業務を担当しました。現在は2015年に創業した(株)Todoフォーラムの代表として医薬・バイオ、機能性食品の研究開発コンサルティングを行っています。農水省「知」の集積と活用の場に登録されている研究開発プラットフォーム(おー10)と(おー41)のプロデューサーとして、介護予防・認知機能維持に資する機能性農産物、食品、サプリメントの研究開発と、韓国のスタートアップ企業が研究開発する抗菌剤の国内事業を支援しています。

経42

今年の10月で80才。いろいろと身体が弱ってきていますが、元気に頑張っています。

経43

やはり定年を越え、75歳のかべをのりこえると、いろんな病気が寄りついてきます。「いかにしてのりこえるか?」です。外で元気に働いている人には、かなわない、複雑です。ともかくも元気出せ!です。

工45

細々と年金生活送っております。存命の喜び、日々に楽しまざらんや。

経48

まだ(小児科・内科)開業医をしています。保険証廃止に反対の運動もしています。トラブル続きのマイナ保険証に反対です。トラブルの実体を記者会見し、テレビ、新聞が報道してくれました。

食49

長きに渡り四明会を運営されました事、お慶び申し上げます。昨年12月に主人は亡くなりましたが、農学部を卒業出来ました事を誇りに思っておりました。これから益々のご繁栄をお祈り申し上げます。有難うございました。(妻筆)

産54

ISOの審査員として活動しています。

産54

引き続き、認知症予防を追求しています。エーザイのレカネマブやシスメックスのAβ検査の保険適用など、可能性が広がっています。本年は4~7月に茨城県古河市で、社会実装実験をしています。結果は共同通信を通じて配信しています。

化55

いつもありがとうございます。退職しましたが、元気でやっております。

水58

2022年12月(イスタンブル出張)、黒海につながるボスポラス海峡を航行し、戦火のウクライナを身近に感じました。2023年2月(ジャカルタ出張)、海岸線に2m近く積まれた土のうを見て、地盤沈下に首都移転はなむなしと思いました。2023年7月(台北出張)、總統府の前で機関銃を持った兵士を見て、有事を懸念しました。若手や中堅との交流が最大の楽しみです。63才現役です。もうしばらく頑張ります。

農60

いつもありがとうございます。この3月、奈良県庁を退職し、現在はフリー生活を楽しんでいます。今後ともよろしくお願ひいたします。

化63

名簿も電話帳も迷惑な電話に使われるの困ったことです。このごろは固定電話にかかる電話は大部分が迷惑な営業の電話です。それでも電話帳や番号案内で調べてかけてくる人がいるかも知れないので、掲載は止めいません。電話帳も名簿も、住所・電話番号の掲載・不掲載を選択できるなら廃止まではしなくてもいいのではないかと思います。

林平元

平成元年3月卒業(第65回林学科)です。今年で58歳になりますが、大学院(熱平6)で学んだことを生かし、海外(政府開発援助、ODA)の現場で、森林保全プロジェクトの運営に従事しています。

化平5

J A ぶらさがりの零細農業を立ち上げて頑張ってます。Agricultureは零細農業の名前です。

食品学平19

食品生物科学科の同窓会などあれば教えてください。

生物令5修

慣れない土地の暮らしですが、そこそこ元気にやっています。

個人情報保護について

四明会名簿は会員の親睦を目的として作成しています。名簿の利用者・対象者を限定しており、目的外の使用は固く禁じています。皆様の個人情報及び皆様からいただいた情報の管理、取扱いに際し、関連する法令を厳守し、厳重に管理いたします。

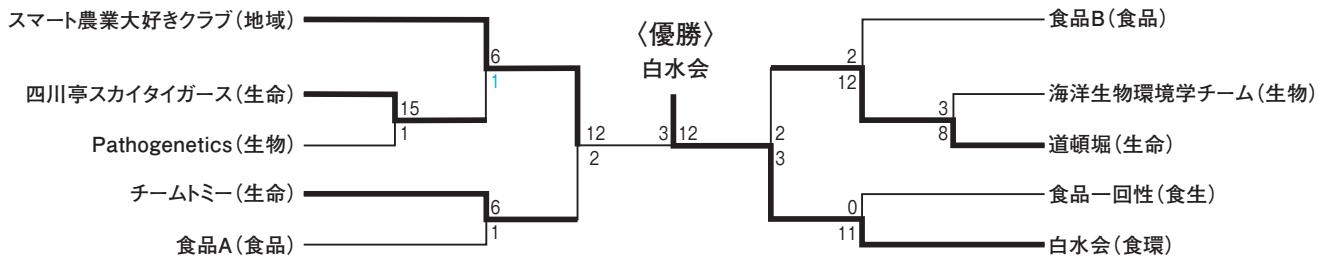
「四明会たより」への寄稿のお願い

「四明会たより」は年1回の発行です。今後も紙面の充実を図りたいと考えています。各地域や各学年における同窓会の活動を会員の皆様にご紹介したいと考えていますので、ご寄稿をお待ちしています。

また、こんな記事を読みたい等のご希望がありましたら事務局までお知らせください。
(締切随時、400字程度、写真があれば添えてください)

E-mail: shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

2023年度 農学部ソフトボール大会結果報告



生命→応用生命科学専攻
地域→地域環境科学専攻
食環→食料・環境経済学科

生物→応用生物科学専攻
食品→食品生物科学専攻
食生→食品生物科学科

優勝チームキャプテンからのメッセージ

まずはコロナ禍の中止を経て4年ぶりの開催となったこの大会において、再開へ向けてのご尽力並びに主催・運営をして頂いた四明會事務局の皆様と運営委員の皆様、そしてともに大会を盛り上げてくださった参加者・関係者の皆様にこの場をお借りし、心より感謝申し上げます。

私自身、中断期間中から開催を待ち望んだこの大会に前回優勝チームのキャプテンとして参戦することに高揚と緊張の入り混じる思いのなか、チームメイトとともに練習を重ね、連覇を成せたことは大きな達成感と誇りに満ちる想いでした。白水会としておそらく二度目の連覇となったこの大会、どのチームも高い実力とチームワークを發揮され、来年以降はさらにレベルアップするものと思います。私はこの大会をもって引退となります、白水会はまだまだ若い選手の多いこれからの中なので、他チームに劣らない研鑽を基に、来年・再来年と連覇を伸ばし、黄金時代を築いてくれるものと期待しています。

最後に、日常では味わえない刺激と繋がりを感じられるこの大会の価値はコロナ禍を経て改めて多くの人に認識されたところかと存じます、そんな価値あるこの大会が今後もさらなる発展のなかで継続していくために、皆様には引き続いてのご協力をお願いするとともに、阻むことのない平穏な社会があることを切に願っています。

(白水会代表 食料・環境経済学科4回生 長門徹)



ソフトボール大会後記

令和五年度の四明會ソフトボール大会は、コロナ禍を挟んで実に4年ぶりの開催となりました。コロナ禍の影響で農学部グラウンドの利用や大勢での活動が制限され、以前はソフトボールが非常に盛んだった農学部も、ソフトボールからどうしても疎遠になっていた感じがして、当時学部生だった私もやりきれない思いを抱えておりました。しかし、本年度になってようやく活動制限が緩和され、学科内の対抗戦などができるようになり、農学部グラウンドにもコロナ禍以前のような活気が再び戻ってきたのを感じられて非常にうれしいです。

本大会は10月6日から10月20日にかけて農学部グラウンドで行われ、天候にも恵まれ無事終了することができました。全10チームが出場し、白熱した試合が繰り広げられ、「白水会」(食料・環境経済学科)が見事優勝を飾りました。どのチームも、久しぶりにみんなでソフトボールをする楽しさを味わえていたようで本当に良かったと思います。また、本大会の大きな目的として、研究室や学科・専攻の間の交流が増え、農学部全体のつながりがより活発になっていく雰囲気をみなさまに感じていただけたのならば何よりです。このような大会が行えることが決して当たり前ではないことを踏まえて、来年以降も、これまで以上に活発な大会となること期待しております。

最後になりましたが、本大会の主催し、運営にご尽力いただきました四明會事務局の皆様に深く御礼申し上げます。

(学生世話人 浅野 伸弥 応用生命科学専攻 修士一回性(開催時)

四明會会員数一覧

2024/7/1現在

学科・専攻	卒業・修了年	合計	物故	学外	学内	住所無効	海外
農 學 科	昭和2～平成13	1,765	702	726	6	287	44
林 学 科	昭和2～平成11	1,674	652	623	13	351	35
農芸化学生科	昭和2～平成13	2,966	1,038	1,342	25	489	72
農林生物学科	昭和2～平成17	987	331	453	16	158	29
農業工学科	昭和2～平成14	2,031	529	1,055	13	375	59
農林経済学科	昭和2～平成13	2,617	1,128	811	9	627	42
水産学科	昭和25～平成12	1,119	232	472	10	380	25
林産工学科	昭和44～平成12	1,005	57	582	24	304	38
食品工学科	昭和46～平成12	1,246	48	852	16	281	49
畜産学科	昭和51～平成12	647	20	374	9	214	30
熱帯農学専攻	昭和58～平成10	90	4	29	5	15	37
生物生産科学科資源生物科学コース	平成11～平成19	484	1	211	10	251	11
生物生産科学科生産システム学コース	平成11～平成21	112	1	62	2	45	2
生物機能科学科応用生命科学コース	平成11～平成19	546	4	290	13	230	9
生物機能科学科生物材料科学コース	平成11～平成21	147	1	66	3	76	1
生産環境科学科生物環境科学コース	平成11～平成17	146		58	4	81	3
生産環境科学科地域環境創造学コース	平成11～平成17	184		90	5	86	3
生産環境科学科生物資源経済学コース	平成11～平成19	168	1	59	2	106	
資源生物学科	平成17～	1,874	3	799	215	854	3
応用生命科学科	平成17～	998	2	473	109	396	18
地域環境工学科	平成17～	727	5	426	72	222	2
食料・環境経済学科	平成17～	630		302	29	296	3
森林科学科	平成17～	1,127	1	379	146	597	4
食品生物学科	平成17～	700	1	324	76	294	5
農学専攻	平成11～	254		94	13	129	18
森林科学専攻	平成10～	521	1	165	27	263	65
応用生命科学専攻	平成11～	781	3	409	41	274	54
応用生物科学専攻	平成10～	487		163	30	266	28
地域環境科学専攻	平成9～	489		158	24	231	76
生物資源経済学専攻	平成9～	282		84	27	145	26
食品生物学専攻	平成15～	267	3	109	12	112	31
合計		27,071	4,768	12,040	1,006	8,435	822

農学科から畜産学科：学部卒業、修士修了、博士修了、特別会員

熱帯農学専攻、農学専攻から食品生物学専攻：修士修了、博士修了、特別会員

生物生産科学科資源生物科学コースから食品生物学専攻：学部卒業

会費納入のお願い

2024年度（2024年4月～2025年3月）四明會年会費1,500円を同封の払込取扱票（A4サイズ、宛名票とで同じシート）で、コンビニまたは郵便局から振り込みくださいようお願いいたします。

60歳以上の方でご希望される場合は終身会費（2万円）の制度もございます。どうぞご利用ください。

会費納入方法については同封の「2024年度四明會会員状況調査と会費納入について」をご覧ください。ご不明の場合は事務局までお問合せください。

「京都大学農学部四明會 VISAカード」について

「四明會VISAカード」はご存じでしょうか。三井住友カード（株）と提携して発行しているクレジットカードで、デザインに農学部正門を取り入れた親しみやすく、ステータスと独自性にあふれたものです。このカードはVISAカードとして、広く国内、国外の加盟店でご利用いただけ、ご利用の都度提携手数料が四明會に入ります。昨年は約22万円の手数料が入りました。四明會の会費もこのカードで支払いできます。一昨年からカードの加入がインターネットからできるようになりました。未加入の方はぜひご加入ください。

右のQRコードから入会ページにアクセスできます。
四明會のホームページにもリンクを設けています。



四明會令和5年度決算及び令和6年度予算

収入の部

科 目	令和5年度決算		令和6年度予算額
	予 算 額	決 算 額	
会 費	6,300,000	5,120,000	6,000,000
名簿 売 払 代	1,200,000	6,000	0
広 告 料	800,000	0	0
VISA 募集手数料	4,000	5,500	5,500
VISA 提携手数料	220,000	211,032	220,000
預 金 利 息	0	10,265	10,265
寄付金及び雑収入	5,000	0	5,000
小 計	8,529,000	5,352,797	6,240,765
前 年 度 繰 越 金	8,245,239	8,245,239	6,707,159
合 計	16,774,239	13,598,036	12,947,924

支出の部

科 目	令和5年度決算		令和6年度予算額
	予 算 額	決 算 額	
名簿印刷製本費	2,600,000	0	0
名簿発送費	222,000	55,500	0
会報等印刷・発送費	2,200,000	2,260,725	2,300,000
球技大会費	100,000	129,142	130,000
会議費	100,000	160,304	200,000
謝金	80,000	121,965	180,000
通信費	50,000	53,272	55,000
消耗品費	50,000	189,437	120,000
光熱水料・借料	220,000	313,806	320,000
振込等手数料	550,000	517,261	550,000
備品費	0	0	0
人件費	3,200,000	3,086,525	2,850,000
雑費	5,000	2,940	5,000
小計	9,377,000	6,890,877	6,710,000
次年度繰越	7,397,239	6,707,159	6,237,924
合計	16,774,239	13,598,036	12,947,924

四明會令和6年度役員名簿

会長 田尾龍太郎
 副会長 吉田健太郎
 監事 藤澤 和謙
 ツ 坂部 綾香

常任委員

農学専攻 田中 義行
 森林科学専攻 小杉賢一朗
 応用生命科学専攻 伊福健太郎
 応用生物科学専攻 吉田健太郎
 地域環境科学専攻 樋口 浩和
 生物資源経済学専攻 松下 秀介
 食品生物科学専攻 谷 史人

委 員
 農 學 科 下野 嘉子
 林 學 科 坂部 綾香
 農芸化 学 科 伊福健太郎
 農林生 物 学 科 吉見 啓
 農業工 学 科 藤澤 和謙
 農林經 济 学 科 鏡島 正信
 水产学 科 菅原 達也
 林产工 学 科 築瀬 佳之
 食品工 学 科 小倉 康平
 畜产学 科 太田 育
 热带农 学 専 攻 樋口 浩和

顧問 森下 直也
 ツ 上根 勝
 事務局 中久保隆雄
 ツ 富田 寿子

不要となった名簿の処分について

以前の名簿が不要となった方は、四明會事務局までご返送ください。責任をもって処分いたします。(申し訳ございませんが
 送料はご負担願います。)

京都大学農学部四明會会則

(平成30年4月18日 一部改正)

第1章 総 則

- 第1条 本会は、京都大学農学部四明會と称する。
第2条 本会は、会員相互の連絡を密にし、親睦をはかることを目的とする。
第3条 本会は、その目的を達成するため名簿の発行、その他必要な事業を行う。

第2章 会 員

- 第4条 京都大学農学部(以下「農学部」という。)の卒業生及び京都大学大学院農学研究科(以下「農学研究科」という。)修士課程修了者、または博士後期課程修了者(研究指導認定退学者を含む)を本会の正会員とする。
2 農学部・農学研究科の現教員及び旧教官、現職員、学生、並びに農学部・農学研究科に特別な関係を持つもので役員会が承認したものを特別会員とする。
ただし正会員であるものは除く。
3 特別会員はこの会則に関して正会員について特に定める事項を除き正会員と同等とする。

第3章 役 員

- 第5条 本会に次の役員をおく。
会長1名 副会長1名 監事2名
常任委員6名以上 委員10名以上
第6条 常任委員は農学研究科の各専攻から推薦された教員について役員会で決定する。
2 委員は各同窓会単位ごとに正会員または特別会員の内から推薦を受け、役員会において決定する。
3 会長が役員を必要とするときは、候補者を推薦し、役員会で決定する。
会長は農学部長をもってあてる。
2 副会長は常任委員の内から、監事は委員の内からそれぞれ役員会において互選する。
常任委員及び委員の任期は1年とし4月に交代するものとする。
ただし留任はさまたげない。
会長は本会を代表し会務を統括する。
副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはこれに代わる。
常任委員は会務を分掌し、監事は財務を監査する。
本会に顧問をおくことができる。
なお、会長は必要に応じて顧問を役員会に出席させることができる。

第4章 役 員 会

- 第11条 役員は役員会を組織し本会の運営に関する重要事項を審議決定する。
第12条 次の事項は役員会の議決を要する。
(1) 事業計画
(2) 予算及び決算に関する事項
(3) 基本財産に関する事項
(4) 会費に関する事項
(5) 寄付金その他収入に関する事項
(6) 会則の変更
第13条 定期役員会は毎年4月に開くものとする。
ただし必要に応じ臨時役員会を開くことができる。
第14条 役員はその1/3以上の同意により臨時役員会を請求することができる。
第15条 役員会は役員の過半数の出席により成立し議事は出席役員の過半数により決定する。
ただし可否同数の場合は議長が決定する。
会則の変更は出席役員の2/3以上の賛成により決定する。
役員会は会長が招集し、議長になる。
第16条 2 役員会の事務は事務局長が処理する。
第17条 2 会長は必要に応じ常任委員会を開く。常任委員会は会長、副会長、常任委員及び事務局長により組織し本会の業務の執行に関し必要な事項を審議決定する。

第5章 会 計

- 第18条 本会の経費は会費及び寄附金その他の収入をあてる。
会費は会員から徴収し、金額はそれぞれ次のとおりとする。
(1) 年会費 正会員、特別会員とも1,500円
(2) 終身会費 60歳以上で希望する者20,000円
(3) 学生会費 (入会金及び在学中の会費)
学部生10,000円 大学院生5,000円
第20条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 事 務 局

- 第21条 本会の事務局は農学部内におく。
第22条 事務局には事務局長1名、事務職員若干名をおく。
第23条 事務局長及び事務職員は会長の指揮を受け事務を処理する。

- 附 則 この会則は昭和46年4月1日より施行する。
附 則 この会則は平成11年4月1日より施行する。
附 則 この会則は平成18年5月1日より施行する。
附 則 この会則は平成20年5月1日より施行する。
附 則 この会則は平成30年4月18日より施行する。

農学研究科教員人事

令和4年10月1日

村田 功二 升任 森林科学専攻
小川 伸一郎 採用 応用生物科学専攻

令和5年11月1日

片山 雄太 採用 ゲノム編集育種講座
高田 理江 採用 ゲノム編集育種講座
DIAO, Zhicheng 採用 応用生物科学専攻

令和5年12月1日

宮田 秀介 配置換 森林科学専攻

令和5年12月16日

伊藤 彩菜 採用 地域環境科学専攻

令和6年1月1日

SERAG ALNOR, Yasir Serag Alnor Mohammed 採用 農学専攻

令和6年1月31日

岩上 哲史 辞職 農学専攻

令和6年2月1日

宗 正智 採用 応用生命科学専攻

生物材料工学講座 林産加工学分野 教授
動物遺伝増殖学講座 動物遺伝育種学分野 助教

(産学共同) (産学共同) 特定准教授
動物機能開発学講座 動物栄養科学分野 特定助教

森林保全管理学講座 山地保全学分野 准教授

生物生産工学講座 農業システム工学分野 助教

作物科学講座 育種学分野 准教授

耕地生態科学講座 雑草学分野 助教

応用生化学講座 生体高分子化学分野 助教

令和6年2月29日		食品生物科学専攻	食品生産工学講座	生物機能変換学分野	助教
老木 紗予子	辞職				
令和6年3月31日					
浅見 淳之	定年	生物資源経済学専攻	国際農林経済学講座	国際農村発展論分野	教授
廣岡 博之	定年	応用生物科学専攻	動物機能開発学講座	畜産資源学分野	教授
竹内 道樹	任期満了	産業微生物学講座 (产学共同)			特定助教
DIAO, Zhicheng	任期満了	応用生物科学専攻	動物機能開発学講座	動物栄養科学分野	特定助教
松下 幸司	定年	森林科学専攻	森林保全管理学講座	森林・人間関係学分野	教授
入江 一浩	定年	食品生物科学専攻	食品生命科学講座	生命有機化学分野	教授
足立 芳宏	定年	生物資源経済学専攻	比較農史農学論講座	比較農史学分野	教授
中崎 鉄也	定年	農学研究科附属農場	植物生産管理学分野		教授
吉岡 まり子	定年	森林科学専攻	生物材料科学講座	複合材料化学分野	准教授
坂本 正弘	定年	森林科学専攻	生物材料科学講座	森林生化学分野	准教授
白岩 立彦	定年	農学専攻	作物科学講座	作物学分野	教授
大澤 直哉	定年	森林科学専攻	森林環境科学講座	森林生態学分野	准教授
伊庭 治彦	辞職	生物資源経済学専攻	農企業経営情報学講座	経営情報会計学分野	准教授
安齋 賢	任期満了	ゲノム編集育種講座 (产学共同)			特定准教授
令和6年4月1日					
中野 龍平	昇任	農学研究科附属農場	植物生産管理学分野		教授
松下 秀介	配置換	生物資源経済学専攻	農企業経営情報学講座	経営情報会計学分野	教授
佐久間 哲史	採用	ゲノム編集育種講座 (产学共同)			特定教授
淺井 智子	採用	応用生物科学専攻	海洋生物科学講座	海洋生物機能学分野	助教
辰巳 晋一	採用	森林科学専攻	森林環境科学講座	森林生態学分野	准教授
令大森 真史	採用	農学専攻	園芸科学講座	果樹園芸学分野	助教
多田 光史	採用		農学専攻作物科学講座	作物学分野	特定助教
桂 圭佑	採用		農学専攻作物科学講座	作物学分野	教授
伊藤 淳史	昇任	生物資源経済学専攻	比較農史農学論講座	比較農史学分野	教授
大石 風人	昇任	応用生物科学専攻	動物機能開発学講座	畜産資源学分野	准教授
北隅 優希	昇任	応用生命科学専攻	生物機能化学講座	生体機能化学分野	准教授
大野 翔	昇任	農学専攻	園芸科学講座	蔬菜花卉園芸学分野	准教授
塚原 洋子	採用	応用生物科学専攻	動物機能開発学講座	畜産資源学分野	准教授
塚野 千尋	昇任	食品生物科学専攻	食品生命科学講座	生命有機化学分野	教授
立花 敏	採用	森林科学専攻	森林保全管理学講座	森林・人間関係学分野	教授
黒川 紗子	採用	森林科学専攻	森林環境科学講座	熱帯林環境学分野	准教授
松尾 美幸	配置換	森林科学専攻	生物材料工学講座	生物材料設計学分野	准教授
山本 琢人	採用	応用生物科学専攻	動物機能開発学講座	生殖生物学分野	特定助教
舟場 正幸	併任	附属牧場長			教授
井鷺 裕司	併任	生物生産環境学系長			教授
田尾 龍太郎	併任	総長選考・監察会議委員			教授
田尾 龍太郎	併任	農学部長			教授
田尾 龍太郎	併任	農学研究科長			教授
井上 和生	併任	農芸化学系長			教授
那須田 周平	併任	附属農場長			教授
高野 俊幸	併任	教員研究評議会評議員			教授
澤山 茂樹	併任	応用生物学部系長			教授
北島 薫	併任	国際戦略本部副本部長			教授
及川 彰	併任	農学資源経済学系長			教授
栗山 浩一	併任	教員研究評議会評議員			教授
令和6年5月1日					
瀬戸口 晓	採用	応用生物科学専攻	動物機能開発学講座	畜産資源学分野	特定助教
令和6年6月1日					
栗野 達也	昇任	森林科学専攻	生物材料機能学講座	樹木細胞学分野	准教授
山森 晃一	採用	農学専攻	作物科学講座	育種学分野	特定助教
令和6年6月30日					
小川 雄一	辞職	地域環境科学専攻	生物生産工学講座	生物センシング工学分野	准教授
山本 琢人	辞職	応用生物科学専攻	動物機能開発学講座	生殖生物学分野	特定助教

農学部・農学研究科学生概要

1. 学生等数 (令和6年5月1日現在)

(1) 学部

学部 学生		合計		
1年次	2年次	3年次	4年次	
303	306	311	375	1,295

(2) 大学院

修士課程			博士後期課程				合計
1年次	2年次	計	1年次	2年次	3年次	計	
302	340	642	83	68	126	277	919

(3) 科目等履修生等

科目等履修生	特別聴講学生	科目等履修生(院)	特別聴講学生(院)	特別研究学生(院)	研究生(院)	研修員	短期交流学生(院)
8	3	2	10	15	13		1

2. 入学状況（令和6年度）

(1) 学部

区分	入学定員	志願者数			入学者数		
		男	女	計	男	女	計
一般入試	—	512	266	778	190	95	285
特色入試	—	51	44	95	4	11	15
計	300	563	310	873	194	106	300

(2) 大学院

区分	入学定員	志願者数			入学者数		
		男	女	計	男	女	計
修士課程	303	219	118	337	186	105	295
博士後期課程	90	43	25	68	42	24	66

3. 入學試験合格者最高点・最低点（総点）（令和6年度・一般入試）

満点	最高点	最低点	平均点
1,050	797.37	612.33	657.70

4. 学部卒業者・大学院修了者・博士学位授与者数

(1) 学部卒業者数

区分	令和5年度	累計
旧制(昭和23～昭和29.3)	—	3,392
新制(昭和28.3以降)	290	22,101
合計	—	25,493

(2) 大学院修了者数

修士課程	令和5年度	累計
315	12,193	

(3) 博士学位授与者数

区分	令和5年度	累計
旧制	—	641
新制	博士課程修了者	56
	論文提出者	8
	合計	64
		2,623
		2,920
		6,184

5. 学部卒業者・大学院修了者等の産業別就職状況

学部（令和6年3月卒業者）・大学院（令和5年度修了者・研究指導認定退学者）

産業	区分	学部		修士課程		博士後期課程	
		男	女	男	女	男	女
農・林・漁業	2		1	1			
鉱業・建設業	1		1	1			
食料品・飲料・たばこ	8		13	16		1	
繊維工業							
印刷等							
化学工業・石油				21	14	6	
鉄鋼業・金属				1	2		
機械・電気	2	1	16	9			
その他			3	5			
電力・ガス				2			
情報通信業・運輸業	7	7	18	14		1	
卸売・小売業	5	4	2	2			
金融・保険業	4	2	9	9			
学術研究・専門・技術	5	2	34	18	4	4	
宿泊・飲食業		1	1				
その他	5		6	3	2	1	
学校教育	1		1	2	16	1	
学習支援業					1		
国家公務			1	5	2		
地方公務	1	3				1	
上記以外	1	1	4	2	4	2	
男子計	42	22	136	103	34	9	
総合計		64		239		43	

6. 国別外国人留学生数

令和6年5月1日現在

国名	合計				
	学部学生	修士課程	博士後期課程	研究生等	合計
アゼルバイジャン			1		1
イタリア				1	1
インド			1	1	2
インドネシア	5	12	7	1	25
ウガンダ			1		1
オーストラリア			1		1
オランダ				4	4
カナダ				1	1
カンボジア		1			1
ケニア			3		3
シンガポール		1			1
スペイン			1	1	2
タイ	2	1	4		7
チリ			1		1
ドイツ		1		1	2
ナイジェリア		2		1	3
バングラデシュ		1	1		2
パプアニューギニア		1			1
フィリピン		2	1		3
ブラジル			2		2
フランス				7	7
ベトナム			2	1	3
ペルー		1			1
ベルギー				2	2
マダガスカル			1		1
マレーシア			2		2
ミャンマー		1	5	1	7
モロッコ			1		1
韓国		4	5		9
台湾	2	8	5		15
中国	1	39	70	11	121
香港	1	1	1		3
米国			1	2	1
総計	11	77	118	34	240

**京都大学農学部教育研究基金
京都大学農学研究科附属農場基金
京都大学農学部100周年記念事業基金
醸金・事業状況の報告**

会員の皆様には昨年度も各基金に多くの醸金を頂き、誠にありがとうございました。

農学部教育研究基金は昨年度67件の寄付を頂いています。収支は下記のとおりです。これまでにもお伝えした通り、大学院生の渡航援助を強化しており、在学中に少なくとも一度は海外での研究発表を経験してもらおうと旅費を支援することにしています。昨年度は23名の学生に国際研究集会等参加助成金、2名の学生に留学支援助成金、14名の学生に短期交流助成金を支給いたしました。本研究科国際交流室が実施する留学生や外国人研究者のための様々な行事の実施補助に使用していた「国際交流室行事用経費」は、会議費等を支出しています。

附属農場基金につきましても38件と特定基金分（京都大学本部を通して募集している基金）7件の寄付を頂きました。心からお礼を申し上げます。平成28年度に移転は終了しましたが、今後、果樹が育ち自己収入が十分に得られるようになるまでには、暫く時間を要するようですし、施設・設備の充実もこれから時間をかけて進めていく必要があります。今後とも、皆様の支援をお願い致します。

農学部100周年記念事業基金は、令和5（2023）年11月28日に記念すべき100周年を迎えるにあたり、農学部の卒業生や縁の深い方々と共に100年の歴史と今後の展望について語り合う機会として、また、日本の農学の将来を担う若手研究者たちの国際的飛躍の契機とすることを願い、様々な記念事業を実施することを目的として令和2年3月16日に設立されました。昨年度は155件の寄付を頂きました。また農学部100周年記念事業として国際研究集会への助成及び農学部100周年記念誌の編纂や記念式典経費を支出しています。

本学ならびに本研究科・本学部がおかれている財政状況は厳しさを増すばかりです。そのような状況下で、皆様からご支援いただけるのは誠に心強く、大変ありがとうございます。引き続き、強力なお力添えを賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

令和6年8月
京都大学農学研究科長・農学部長 田尾 龍太郎

農学部教育研究基金

収支（平成17～令和5年度）

年 度	寄 附 金		研究集会等派遣助成等 金額(円)	翌年度繰越額	備 考
	件数	金額(円)			
平成17	370	10,339,000	—	10,339,000	平成17年12月1日、内規・運用規則裁定
平成18	207	4,833,360	400,000	14,772,360	
平成19	146	8,850,380	1,199,000	22,423,740	
平成20	115	4,493,300	920,000	25,997,040	
平成21	162	3,672,060	1,128,446	28,540,654	
平成22	96	2,445,100	907,000	30,078,754	
平成23	128	7,675,400	1,475,200	36,278,954	
平成24	104	62,991,807	1,200,000	98,070,761	
平成25	87	3,131,180	800,000	100,401,941	
平成26	58	2,007,114	1,250,000	101,159,055	
平成27	67	1,049,580	2,111,951	100,096,684	
平成28	67	3,559,360	3,657,650	99,998,394	
平成29	59	1,043,700	2,267,951	98,774,143	
平成30	81	2,200,100	3,224,966	97,749,277	
令和元	94	4,402,160	25,641,616	76,509,821	
令和2	87	2,170,700	1,528,890	77,151,631	
令和3	107	4,310,040	146,236	81,315,435	
令和4	73	1,416,370	1,185,210	81,546,595	
令和5	67	2,164,820	2,365,308	81,346,107	
(累計)	2,175	132,755,531	51,409,424	81,346,107	

令和5年度執行内訳

事 項		金額(円)	備 考
支出	国際研究集会等参加助成金	1,185,000	詳細は下欄参照
	留学支援助成金支給	250,000	詳細は下欄参照
	短期交流支援金支給	490,000	詳細は次頁参照
	芦生研究林（向山）維持管理費	0	
	国際交流室行事用	440,308	詳細は次頁参照
	その他	0	
計		2,365,308	

国際研究集会等参加助成金内訳

学 年	研究集会名	金額(円)	派遣先
修士1回生	4th International Food and Society Conference 2023	80,000	マレーシア
博士2回生	The 28th Asian-Pacific Weed Science Society Conference	50,000	タイ
博士2回生	XX ISA World Congress of Sociology	80,000	オーストラリア
博士2回生	15th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods	40,000	アメリカ合衆国
博士3回生	Ecological Society of America 2023 Annual Meeting	40,000	アメリカ合衆国
修士2回生	5th World Congress of Reproductive Biology	25,000	中国
博士3回生	The 13th International Conference on Landscape and Ecological Engineering	50,000	韓国
博士2回生	The 6th International EcoSummit Congress	80,000	オーストラリア
博士2回生	The 13th International Conference on Landscape and Ecological Engineering	50,000	韓国
修士1回生	The 28th Asian-Pacific Weed Science Society Conference	50,000	タイ
修士1回生	Asian Mycological congress 2023	25,000	韓国
修士1回生	KEPLR (Key-Molecule-Network in Plant Reproduction) Kickoff Meeting zurich	50,000	スイス
修士1回生	5th World Congress of Reproductive Biology	25,000	中国
修士1回生	ACS Spring 2023	100,000	アメリカ合衆国
博士2回生	15th International Congress on Agricultural Mechanization and Energy in Agriculture	50,000	トルコ
修士2回生	5th World Congress of Reproductive Biology	25,000	中国
修士2回生	15th International Congress on Agricultural Mechanization and Energy in Agriculture	50,000	トルコ
修士1回生	6th International Rice congress	40,000	フィリピン
修士2回生	15th International Congress on Agricultural Mechanization and Energy in Agriculture	50,000	トルコ
修士2回生	5th World Congress of Reproductive Biology	25,000	中国
修士2回生	10th Anniversary Conference : Food, Environment, and Health-Global Evidence	100,000	アメリカ合衆国
学部4回生	KEPLR (Key-Molecule-Network in Plant Reproduction) Kickoff Meeting zurich	50,000	スイス
修士2回生	Asian Mycological congress 2023	25,000	韓国
修士1回生	5th World Congress of Reproductive Biology	25,000	中国

留学支援助成金内訳

学年	派遣先名	金額(円)	派遣先
学部3回生	大学間学生交流協定に基づく派遣留学プログラム・サセックス大学への派遣留学	180,000	イギリス
学部2回生	部局間学生交流協定締結校への派遣留学（台湾大学）	70,000	台湾

短期交流支援金内訳

学年	研究集会名	金額(円)	派遣先
学部2回生	ILASセミナー（海外）：南仏伝統産地の食環境とワイン醸造産業	35,000	フランス
学部2回生	ILASセミナー（海外）：南仏伝統産地の食環境とワイン醸造産業	35,000	フランス
学部3回生	ILASセミナー（海外）：南仏伝統産地の食環境とワイン醸造産業	35,000	フランス
学部3回生	ILASセミナー（海外）：南仏伝統産地の食環境とワイン醸造産業	35,000	フランス
学部1回生	ILASセミナー（海外）：タイ変容する東南アジア環境・生業・社会と持続的発展	35,000	タイ
学部3回生	ILASセミナー（海外）：タイ変容する東南アジア環境・生業・社会と持続的発展	35,000	タイ
学部2回生	ILASセミナー（海外）：タイ変容する東南アジア環境・生業・社会と持続的発展	35,000	タイ
学部2回生	ILASセミナー（海外）：タイ変容する東南アジア環境・生業・社会と持続的発展	35,000	タイ
学部1回生	ILASセミナー（海外）：南仏伝統産地の食環境とワイン醸造産業	35,000	フランス
学部3回生	ILASセミナー（海外）：南仏伝統産地の食環境とワイン醸造産業	35,000	フランス
学部3回生	ILASセミナー（海外）：タイ変容する東南アジア環境・生業・社会と持続的発展	35,000	タイ
学部2回生	ILASセミナー（海外）：タイ変容する東南アジア環境・生業・社会と持続的発展	35,000	タイ
学部1回生	ILASセミナー（海外）：南仏伝統産地の食環境とワイン醸造産業	35,000	フランス
学部3回生	ILASセミナー（海外）：南仏伝統産地の食環境とワイン醸造産業	35,000	フランス
学部1回生	ILASセミナー（海外）：タイ変容する東南アジア環境・生業・社会と持続的発展	35,000	タイ
学部2回生	ILASセミナー（海外）：タイ変容する東南アジア環境・生業・社会と持続的発展	35,000	タイ
学部1回生	ILASセミナー（海外）：南仏伝統産地の食環境とワイン醸造産業	35,000	フランス
学部1回生	ILASセミナー（海外）：タイ変容する東南アジア環境・生業・社会と持続的発展	35,000	タイ

国際交流室行事用内訳

事項	金額(円)	備考
会議費	320,536	
レンタル料	17,692	
損害保険料	102,080	

令和5年度入金者一覧

青山	咸康	茅原	正毅	杉本	啓二	福田	和久	山口	務也
赤松	美紀	木岡	紀幸	高橋	強夫	藤田	芳保	山本	卓也
荒井	修亮	北野	善久	谷	昭正	古田	和男	横尾	国治
有馬	賢治	木村	昭夫	塚本	弘祐	松本	恒	芳	隆司
池田	昇司	久馬	一剛	中西	茂	川下	欣	和	文男
井上	樹芳	清澤	秀樹	永野	由祐	宮宮	耕	渡辺	弘之
今村	祐嗣	桑島	士郎	中森	茂	下村	二	牛野	正
井村	周一	蕙愛レディースクリニック	事務長	鳴澤	成泰	井	太一	大石	文夫
裏出	令子	河野	慎吉	新山	陽子	邑本	太郎	南井	善
岡本	昇太	小谷	明司	西澤	治	真歩	丈	齊藤	尋健
加古	尚久	坂口	守彦	西村	三	森茂	二	吉村	実
柏川	陽子	坂田	義樹	橋本	涉	森重	泰		
加藤	俊夫	佐々木	隆造	蓮池	直樹	森下	稔		
上条	雄吉	島村	典久	林田		柳井	尚彦		

(五十音順)

以上67名

農学研究科附属農場基金

収支（平成25～令和5年度）

年 度	寄 附 金		教 育 研 究 活 動 助 成 等	翌 年 度 繰 越 額	備 考
	件数	金額(円)	金額(円)		
平成25	97	3,773,000	0	3,773,000	
平成26	66	1,520,960	0	5,293,960	
平成27	62	1,176,000	2,069,280	4,400,680	
平成28	40	813,400	0	5,214,080	
平成29	33	592,900	0	5,806,980	
平成30	37	852,600	1,882,275	4,777,305	
令和元	34	2,450,000	2,420	7,224,885	
令和2	47	1,029,000	0	8,253,885	
令和3	56	833,980	0	9,087,865	
令和4	39	810,460	0	9,898,325	
令和5	38	805,560	0	10,703,885	
(累計)	549	14,657,860	3,953,975	10,703,885	

令和5年度執行内訳

事 項	金 額 (円)	備 考
支 出	一	0
	計	0

(特定基金分) 収支(令和2～令和5年度)

年 度	寄 附 金		教 育 研 究 活 動 助 成 等	翌 年 度 繰 越 額	備 考
	件数	金額(円)	金額(円)		
令和2	1	9,500	0	9,500	
令和3	9	380,950	0	390,450	
令和4	5	53,200	0	443,650	
令和5	7	70,300	0	513,950	
(累計)	22	513,950	0	513,950	

令和5年度執行内訳

事 項	金 額 (円)	備 考
支 出	一	0
	計	0

令和5年度入金者一覧

(五十音順)

阿江	教治	久馬島	一剛	久夫	涉則	茂太郎
赤松	美紀	桑島	士郎	正	芳広	丈二
荒井	修亮	蕙愛レディースクリニック	クリニック 事務長 鎌田 ゆかり	助仁	美和	直樹
池橋	宏正	小谷	明司	由祐泰子	男恒二	二彦
牛野	令子	近藤	始彦	成陽三剛	欣太	尚康夫
裏出	陽子	酒井	芽			
柏川	紀幸	坂田	義樹			
木岡		島村	典久			

以上38名

(特定基金分)

(五十音順)

磯野	直紀	遠藤	隆	竹本	順一	樋口	友香
碓井	彰	竹本	順一	竹本	順一		

以上7名

農学部100周年記念事業基金

収支（令和元～5年度）

年 度	寄 附 金		教 育 研 究 活 動 助 成 等		翌 年 度 繰 越 額	備 考
	件数	金額(円)	件数	金額(円)		
令和元	0	0	0	0	0	R2.3.16付設置
令和2	225	6,661,400		0	6,661,400	
令和3	146	11,205,250		62,380	17,804,270	
令和4	135	7,254,773		364,290	24,694,753	
令和5	155	6,574,571		13,545,270	17,724,054	
(累計)	661	31,695,994	0	13,971,940	17,724,054	

令和5年度執行内訳

事 項		金額(円)	備 考
支出	京都大学農学部創立100周年記念式典	3,037,710	
支出	農学部100周年記念誌の編纂	9,810,893	
支出	国際研究集会助成事業	272,182	コムギ研究の新展開：100年の研究史を反映した生物遺伝資源とゲノミクス、そして未来へ
支出	国際研究集会助成事業	421,965	京都大学農学部・農学研究科100周年記念国際研究集会 —食と生命の未来を拓く農学—
支出	旅費	2,520	
	計	13,545,270	

令和5年度入金者一覧

(五十音順)

青江	正仁	省輔	元勉	恒弘	弘人	章馬
木松	豪之	大昌	実美	一樹	一樹	一樹
青青	白亮	好	雄人	浩吉	浩吉	浩吉
松見	浩和	一	之子	良稔	良稔	良稔
田井	大淳	公伸	周子	行彥	行彥	行彥
天荒	高修	洋	秋太	彦	彦	彦
粟池	清裕	一	剛修	一太	一太	一太
井石	恭直	太	二太	直	直	直
磯伊	す代	浩	太涉	健	健	健
乾今	明子	幾	茂	秀尚	秀尚	秀尚
井村	一久	浩	太郎	武直	武直	武直
岩岩	利子	幾	太郎	絃	絃	絃
上田	香	浩	太郎	久代	久代	久代
上根		浩	太郎	也	也	也
梅田	涼平	平	香作	博明	博明	博明
裏出	令子	廣	之彦	太子	太子	太子
藤老	隆	裕	史春	正子	正子	正子
遠大	予	裕	春司	健一	健一	健一
木田	雅	一	太郎	也	也	也
大岡	興	陽	太郎	也	也	也
緒岡	和	一	太郎	也	也	也
本岡	祥	美	太郎	也	也	也
奥野	昇	男	太郎	也	也	也
小雲	信	和	太郎	也	也	也

以上155名

第19回 京都大学ホームカミングデイ2024

リアルとオンラインのハイブリッド開催

【開催日時】

リアル開催:2024年11月2日(土) 10時00分～16時30分

【リアル開催のイベント】

◆午前:講演会

会場:京都大学百周年時計台記念館1階 百周年記念ホール

・開会挨拶 湊 長博 京都大学総長(京都大学同窓会会长)

・講師:剣持秀紀(工学研究科・1993年修了)VOCALOID開発者

歌詞とメロディーを入力してコンピュータなどで歌唱を作り出せる技術を開発したボーカロイド生みの親!

◆午後:音楽会

京都大学交響楽団、京都大学グリークラブ、京大合唱団同窓会

◆午後:遺贈セミナー

◆京都大学アカデミックデイ×ホームカミングデイ2024

◆Kyoto University Photo Contestの写真展、京都大学書道部OB展の展示

◆くすのき逸品マルシェ(時計台記念館前クスノキ周辺)

附属農場・牧場の野菜・食肉類や本学ゆかりの企業の商品の販売、キッチンカーなど、色々なお店でお買い物を楽しんでね!

◆施設見学(清風荘公開、総合博物館、附属図書館、尊攘堂)

◆スタンプレー(素敵な景品あり)

※ リアル開催のイベントはWebによる事前予約が必要なイベントもございますので、申し込み方法等の詳細は京都大学HP、京都大学同窓会HP・Facebook等に掲載いたします。

【オンライン開催】

2024年10月1日(火)10:00～2024年11月30日(土)17:00

【リアルイベントのオンライン配信】

◆湊長博総長挨拶(動画)※

◆剣持秀紀氏による講演(動画)※

◆京都大学交響楽団などによる演奏(動画)※

※ビデオ収録後、11/2以降に準備ができ次第公開いたします。

◆フォトコンテスト参加写真の掲載

◆第15回HCD(2020年度)から第18回HCD(2023年度)までのビデオコンテンツのアーカイブなど

オンライン特設サイト <https://hcd.alumni.kyoto-u.ac.jp/>
どなたでもご覧いただけます。



※上記のイベント内容は現時点の予定であり、予告なく変更になる場合がございます。

【お問い合わせ】

京都大学ホームカミングデイ事務局

E-mail: alumni@www.adm.kyoto-u.ac.jp

<https://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/>



◎事務局より

令和6年4月から事務局長として勤務させていただいております
中久保隆雄(なかくぼ たかお)と申します。

農学部事務としては、北部構内事務部で15年前に7年間勤務させていただきました。勤務中には農場が木津川市に移転しましたことが、思い出として残っております。会報の発行、ソフトボール大会、卒業50周年記念同期生会、培根会等の行事へ事務局として積極的に携わり、会員の皆様へより良い支援ができるよう、務めさせていただきます。

よろしくお願ひいたします。

(中久保)

四明会たより (2024年8月発行)

京都大学農学部四明会

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

Tel/Fax 075-753-6030

メールアドレス shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

ホームページ <https://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>